



香川大学創立70周年記念事業  
香川大学博物館特別展

香川大学第五代学長

# 倉田貞美博士の業績

多君媿稚数論心文字縁同  
骨肉深别有樽前揮淚語  
貞美書



会期 2020年 2月19日【水】～3月24日【火】

会場 香川大学博物館 (香川県高松市幸町1-1)

休館 日・月曜日、祝日 開館時間 10:00～16:00

入館料  
**無料**

## 特別講演 (香川大学博物館 第77回ミュージアム・レクチャー)

演題 倉田貞美博士の生涯と学問

講師 田山 泰三 (全国漢文教育学会評議員・『倉田貞美著作集』校訂者)

日時 2020年3月14日【土】 13:00～14:30

会場 香川大学研究交流棟5階 研究者交流スペース

対象 一般

定員 50名



※ 参加無料、申し込みはE-mail、TEL、FAXで香川大学博物館まで。定員に空きがあれば当日参加可。  
※ 講演終了後、香川大学博物館展示室で講師による展示解説があります。

# 特別展について

倉田貞美博士は、香川大学教授を長く務められ、多くの学生を指導される一方で、生涯にわたり漢文学、特に清代末期から中華民国時代に至るまでの漢詩人の作品と時代背景を研究されました。ご自身の卒業論文『中國現代詩の研究』を常に手元に置かれ、びっしりと加筆を続けられました。倉田博士は、この時期を研究する漢文学者として国内で唯一無二の存在でした。香川大学においては学芸学部長、教育学部長を経て1970年に香川大学学長に就任されました。教育学部より初めて選出された学長であり、3年間の任務を全うされました。

本特別展では、ご令息の倉田定宣氏による編集によって本年度刊行された『倉田貞美著作集』に収録された『中國現代詩の研究』の直筆原稿を展示します。倉田博士が生涯にわたって研究内容を記述し続けた貴重な資料であり、今回初めて公開されます。併せて倉田博士の香川大学での業績や研究内容も紹介します。また、倉田博士の恩師で『大漢和辞典』の著者でもある諸橋轍次博士が倉田博士に贈った書簡や書軸を展示します。さらに、倉田博士の研究テーマである漢字および漢詩漢文の魅力も紹介します。

## 展示目録

- 1 『中國現代詩の研究』直筆原稿
  - 2 日本語・中国語新聞 切抜帳
  - 3 研究カード
  - 4 倉田貞美博士揮毫一行書
  - 5 倉田貞美博士揮毫二行書
  - 6 倉田貞美博士揮毫色紙
  - 7 東京文理科大学卒業アルバム
  - 8 倉田貞美著『倉田貞美著作集』明德出版社
  - 9 倉田貞美著『清末民初を中心とした中國近代詩の研究』大修館書店
  - 10 倉田貞美著『疚心集』朝日出版
  - 11 倉田貞美宛諸橋轍次書簡
  - 12 諸橋轍次揮毫書軸
  - 13 諸橋轍次揮毫横額(「心廣体胖」)
  - 14 諸橋轍次揮毫色紙(「君子謀道不謀食」)
  - 15 諸橋轍次著『大漢和辞典』大修館書店
  - 16 『諸橋轍次著作集』第十卷 大修館書店(倉田博士著作序文収録)
- その他研究実績の紹介





## 倉田貞美博士 プロフィール

倉田貞美（くらたさだよし、1908年12月1日生・1994年5月5日没）香川大学第五代学長・漢文学者

香川県三豊郡大見村（現 三豊市三野町）出身。旧香川県立三豊中学校を卒業後、東京高等師範学校研究科などを経て、東京文理科大学漢文学専攻を卒業。卒業論文は『中國現代詩の研究』。指導教授は諸橋轍次博士。三度の応召を経て1949年香川大学教授に就任。中国近現代文学の研究を継続し、「醗酵期」ともいうべき清末民初詩壇の実態の全面的究明に取り組む。1968年学位論文『清末民初を中心とした中國近代詩の研究』により東京教育大学文学博士。香川大学では1959年より学芸学部長、1969年より教育学部長、1970年より香川大学学長に就任（1970年3月1日～1973年2月28日）。学生運動の嵐が吹き荒れる中、卓越した経営手腕で大学の矜持を守り抜いた。1980年、勲二等に叙され旭日重光章を受賞。



## 倉田博士の研究実績 — 郭沫若の高松来訪 —

成仿吾と栗林園に遊ぶ  
郭沫若

清晨栗林に入る

紫雲晴昊に挿しはさむ

攀援して其の腰に及べば

松風我が脳を清うす

放観す天地の間

旭日方に杲杲たり

海光東南に蕩き

遍野容草生ず

泰山の高きに登らざれば

天下の小なるを知らず

稊米大倉の中

蛮触の争い未だ了らず

長嘯す一声遙かに

狂歌雲杪に入る

大正五（一九一六）年、岡山の旧制第六高等学校留学中の郭沫若は、友人成仿吾と栗林公園を訪れ、一編の五言詩を詠んだ。時に沫若二十四歳。

この詩は栗林公園に遊び、紫雲山に登臨したときの感慨を詠じたものであり、この時の極めて愉快であった巡遊の記憶を遺留している。この頃の沫若は、彼が受けた高等学校における外国語の教育や、その頃の日本文学界の刺激などから、新奇な外国文学に強く吸引されながら、なお伝統的なもの、母国の遺産の中に、香気高い優れたもののあることを痛感していた。いな、詩人郭沫若の魂は、そこから多くの滋養分をなお摂取し続けていたといえるであろう。

（倉田貞美「郭沫若高松に遊ぶ」抄）

郭沫若（一八九二—一九七八）

中国の文学者・政治家。四川省楽山の人。漢詩漢文にすぐれた。日本に留学中に文筆活動を開始。旧制第六高等学校を経て九州帝国大学医学部卒業。その後帰国し日中戦争時は抗日救国に従事。中華人民共和国成立後は政務院副総理、中国科学院院長、中日友好協会名誉会長などの要職を歴任。親日家で日本との民間交流にも努めた。倉田博士と親交があった。

## 主な展示

- 東京文理科大学卒業論文『中國現代詩の研究』直筆原稿
- 倉田貞美博士の書作品
- アルバム（東京文理科大学卒業記念、香川大学学長時代など）
- 倉田貞美博士宛諸橋轍次博士の書簡
- 倉田貞美博士囑諸橋轍次博士の書軸・横額
- 中国近現代文学者の紹介 など



▲アクセス



※駐車場がありませんので、公共交通機関もしくは周辺のコインパーキングをご利用下さい。



◀香川大学幸町北キャンパス

会場

香川大学博物館

お問い合わせ  
・  
お申し込み

〒760-8521 高松市幸町1-1 Tel/Fax: 087 (832) 1300  
http://www.museum.kagawa-u.ac.jp/  
E-mail: museum@ao.kagawa-u.ac.jp

主催：香川大学博物館

後援：香川大学教育学部同窓会 松楠会、香川大学国文学会、全国漢文教育学会、公益財団法人斯文会

協力：倉田和務、西山弘子(香川大学名誉教授)、株式会社大修館書店、株式会社明德出版社

特別展実行委員会：寺林 優(香川大学博物館長)、井上幸恵(香川大学博物館)、古橋紀宏(香川大学教育学部准教授)、田山泰三(全国漢文教育学会評議員)